

重点改革項目Ⅲ 持続可能な財政運営の確立

大項目	地方公営企業などの経営改革				No.	68	
中項目	水道事業の経営改革の取組強化				担当課	水道局経営管理課	
具体的な改革項目	企業債残高の計画的圧縮						
現状と課題 (これまでの取組)	プラン2010においては、21年度末残高に対し24年度末で約34億円圧縮する計画であるが、現段階では約57億円の圧縮を達成できる見込みである。						
改革実施概要	改革の目的、考えられる効果	・将来的な水道財政の硬直化を防ぎ、健全財政を確保する。					
	取組の内容	・企業債借入額を元金償還額以下とする。					
	取組工程 (具体的な内容)	現状	平成25年度		平成26年度		最終目標／ 27年度以降
			計画	実績	計画	実績	
	・平成24年度末では、対平成21年度比約57億円減の46,672百万円となる見込みである。	計画的な借入を継続する ・25年度借入額 3,074百万円 ・25年度元金償還額 3,184百万円	計画的な借入を継続した ・25年度借入額 2,763百万円 ・25年度元金償還額 3,184百万円	計画的な借入を継続する ・26年度借入額 2,418百万円 ・26年度元金償還額 3,057百万円	計画的な借入を継続した ・26年度借入額 2,153百万円 ・26年度元金償還額 3,057百万円	・平成27年度以降については、水道事業の次期基本計画策定に合わせ検討する	
指標	企業債残高	46,672百万円	46,562百万円	46,251百万円	45,923百万円	45,347百万円	

進捗管理	(各年度10月、年度終了後に実施)		平成25年度		平成26年度	
	取組の状況	上半期 (4～9月)	借入予定額・元金償還額ともに変更なし	予定通り進捗	借入予定額・元金償還額ともに変更なし	予定通り進捗
		下半期 (10～3月)	対象事業費減少及び26年度への繰越発生により借入額減少	予定通り進捗	対象事業費減少及び27年度への繰越発生により借入額減少	予定通り進捗

年度評価	(年度終了後に実施)		平成25年度		平成26年度	
	取組工程、指標に対する評価		26年度への繰越166百万円がなく、25年度中に全額借入を行った場合の企業債残高は46,417百万円となり、計画を上回る削減を達成することができた。また、企業債残高削減により、企業債利息は減少傾向にある。	A	27年度への繰越327百万円がなく、26年度中に全額借入を行った場合の企業債残高は45,674百万円となり、計画を上回る削減を達成することができた。また、企業債残高削減により、企業債利息は減少傾向にある。	A
		課題、今後の方針、改善事項など	・財政状況を踏まえた借入対象事業、起債充当率の検討		平成27年度以降については、浄配水施設の設備更新に多額の経費が必要となることに伴い、企業債残高は増加する見込である。	

計画期間の評価	(平成26年度上半期終了後に実施、下半期終了後に最終確定)		総合評価			平成27年度以降
	取組工程、指標に対する評価		借入額を当年度の元金償還額以下に抑えることにより、企業債残高の圧縮を図ったところであるが、26年度末においても計画を上回る圧縮が達成できた。	A	平成27年度以降は、浄配水施設の設備更新が集中することから、企業債残高は増加傾向となるが、一定の限度を定め、上昇の抑制に努める。	
		課題、今後の方針、改善事項など	・平成27年度以降については、浄配水施設の設備更新に多額の経費が必要となることに伴い、企業債残高は増加する見込である。			